

2024 年度第 3 四半期決算説明会における主要な質疑応答

#	質問	回答
1	航空宇宙システムの 24 年度 10-12 月期の業績について、前四半期比で利益水準が大きく低下している理由を教えてください。 (参考) 航空宇宙システム 24 年度事業利益 7-9 月期:205 億円 10-12 月期:39 億円	ドル建て返金負債※の為替変動に伴う評価替えが 7-9 月期および 10-12 月期の業績にそれぞれ大きな影響を与えました。 また、10-12 月期には航空会社（スピリット航空）のチャプター11（日本の民事再生法に相当）申請に伴う貸倒引当金計上やボーイング社のストライキ影響に伴う採算性の低下もありました。 ※ PW1100G エンジンの運行上の重要な問題に係るドル建て返金負債であり、当該残高は四半期末に円貨への換算評価替えを実施します。為替換算評価替えに伴う当該残高の変動が生じた場合、売上収益に対して同額の影響（返金負債の増加/減少→売上収益の減少/増加）があり、会計期間の利益を変動させます。
2	エネルギーソリューション&マリンの 24 年度受注実績または見通しに、データセンター向けの製品は含まれていますか。	データセンター向けの非常用ガスタービン発電設備が含まれています。 今後 3 年間のデータセンター市場は CAGR（年平均成長率）10%以上で伸長するとみており、その中で非常用ガスタービン発電設備は年間 100 億円以上の受注を想定しています。
3	パワースポーツ&エンジンについて、24 年度 10-12 月期の先進国向け二輪車とオフロード四輪車の売上収益が前四半期比で大きく増加した理由を教えてください。	理由は以下の通りです。 - 先進国向け二輪車：輸送コンテナのひっ迫やスエズ運河の運航問題によって遅れ、本来 7-9 月期に計上されるべき売上の一部が 10-12 月期に計上されたため - オフロード四輪車：7-9 月期は米国でのリコール対応やメキシコ新工場での生産遅延により売上収益は低位に留まりました。10-12 月期にはこれらの問題が解消に向かったことや新製品の販売促進により、売上収益が拡大しました。
4	防衛省向け事業について、24 年度受注高の見通しを引き上げましたが、さらなる上振れの可能性はありますか。	主な案件は第 3 四半期までに実績化していることから、現在の見通しから大きく上振れすることはないと考えています。
5	防衛省向け事業について、来年度（25 年度）受注高の見通しを教えてください。	来年度の計画は現在策定中であり具体的な回答は差し控えますが、今年度に受注した大型案件（CH-47 輸送用ヘリコプター17 機一括受注:約 2,600 億円、潜水艦：約 500 億円）の反動減が生じる可能性があります。

2024 年度第 3 四半期決算説明会における主要な質疑応答

#	質問	回答
6	セグメントごとに来年度の方向感を教えてください。	現時点で来年度の計画は策定できていませんが、全体的に増収・増益基調になると考えています。各セグメントの方向感は以下の通りです。 <航空宇宙システム> 民間航空機事業： ボーイング社のストライキ影響が 24 年度までに解消し、生産機数の増加が期待できる 防衛省向け事業： 23 年度以降に受注した案件の売上収益に占める割合が増加し、収益性向上が見込める 航空エンジン事業： 旅客需要の増加に伴う業績の伸長に期待できる <車両> 北米向け売上収益の大半を占める R211 プロジェクトは来年度からエスカレーション条項（資材費などの変動を反映させる契約条項）の付されたオプション契約分の生産に移行することで採算性の改善が進む見込み <エネルギーソリューション＆マリン> 船舶海洋事業： 船舶の世界的需要の高まりから船価は上昇傾向が続いており、為替の大きな変動や資機材の急激な高騰がなければ、採算性の向上が期待できる <精密機械・ロボット> 精密機械事業：

2024 年度第 3 四半期決算説明会における主要な質疑応答

#	質問	回答
		中国建設機械市場の需要動向に左右されるため、先行き不透明ではあるものの、中国の大手油圧機器メーカーEddie 社との合併事業※などの施策を講じ、業績の伸長を目指す ※ 当社の技術力と Eddie 社が持つ中核部品の製造能力や材料調達の強みを統合し、競争力強化を図る ロボット事業： 半導体市場の回復が見込まれており、収益性の高い半導体製造装置向けロボットの増加が見込める。また、手術支援ロボットシステム「hinotori™」を手掛けるメディカロイド※が黒字化する見込み ※ シスメックス(株)との合併会社 <パワースポーツ&エンジン> 24 年度に発生したオフロード四輪車の米国でのリコールやメキシコ工場の生産遅延の影響が解消し、販売台数の増加が見込める。軟調な市場環境においても、マーケットニーズをとらえた製品を投入することで一定のシェアアップを目指す
7	パワースポーツ&エンジンについて、来年度の収益性が今年度より低下する可能性はありますか。	No. 6 回答に記載のとおり増収は期待できるものの、オフロード四輪市場が軟調傾向にあることから、販売促進費や広告宣伝費が増加し収益性を押し下げる可能性があります。